

子どもたちが必要としている看護を提供するために

〔評者〕古橋知子 福島県立医科大学看護学部応用看護学部門講師
福島県立医科大学附属病院看護部小児看護専門看護師

臨床で役に立つ小児看護技術

第1巻 子どもの身体計測／第2巻 子どものバイタルサインズ測定
第3巻 子どもの穿刺と看護／第4巻 子どもの安全を守る看護
筒井真優美 監修 小村三千代、伊藤久美、川名り 指導

DVD 各巻定価 33600 円(本体 32000 円+税 5%)

各約 23・28・29・19 分

ビデオ・バック・ニッポン TEL. 03-3405-3176



子どもが身体計測の場面で、^{ためら}「躊躇い」や“恐怖”を見せることがあるということに、果たしてどのくらいの看護師がピンとくるものだろうか。「特に痛いことはないはずなのに、なぜ？」という疑問を抱く人もいるかもしれない。

筆者は大学に籍を置き小児看護 CNS コースの教育に携わりながら、附属病院でも小児看護専門看護師として勤務しているが、子どもとはどのような反応を示し、だからこそ看護師としてどのような技が必要なのかを伝え、実感を与えることに苦慮することがある。このDVD「臨床で役立つ小児看護技術」シリーズ(全4巻)は、子どもの反応および看護師の技を端的に見せてくれている。

第1巻の最終チャプターには、応用篇とした別立てで、“計測前の説明の場面”が約5分間にわたって収められている。私たち看護師は、子どもにわかる説明ができていただろうかと、身に迫る問いかけとともに、具体的な説明のしかたを丁寧に示してくれる貴重な教材である。

■看護師の立ち居振る舞いもヒントになる

子どものバイタルサインズを実際に測定する際に、第2巻の応用篇にあるような“測定が困難な場合”を体験することは少なくない。その状況に対応する看護師がたどる思考過程と、そのなかで行なっている数々の判断が見てとれるつくりとなっている。また、「測定すること自体が目的になってしまっていることはないか」「果たして意味のある正しいデータを得ることができているか」という落とし穴に注意を与えている。

第3巻では、腰椎穿刺などの処置や検査におい

ても、子どもに鎮静剤が使用されるか否かにかかわらず、看護師が子どもに心の準備をさせ、子どもの気持ちを満たし、また子どもの主体性を引き出す技術を駆使する姿が捉えられている。1つひとつの手技やその根拠の確認だけに留まることなく、看護師の立ち居振る舞いに含まれる意図についても感じとってほしい。

■人・物・場を振り返るきっかけに

また、看護として働きかける対象は、子どもおよび家族といった“人”だけではないことを第4巻によって再認識させられる。子どもにとって安全な“環境”をつくり、また管理することは看護師の重要な責務である。当然個々人の努力だけでは安全な環境は成立しない。私たち医療スタッフの働く場としてだけでなく、子どもたちの生活の場として、子どもの視点に立って病院を捉えてみる必要性を示唆している。本DVDは、危険予測トレーニングの教材として、また子どもたちの特徴を踏まえた適切な環境や体制を整備できているか、システムを見直すうえで大いに役立てることができであろう。

各DVDに出演している子どもたちのメッセージを受け止め、それを臨床で役立てられるかは、私たち自身にかかっている。これらのDVDは、どうしたら子どもたちに必要な看護を提供できるのか、そのために必要な時間や物、そして人員をどうやって確保するかを考え実行することを後押しする。小児に携わる看護実践者や看護管理者の方々に、ぜひとも活用してほしい。